

令和8年度第1回青森市環境審議会 会議概要

【日 時】令和8年7月22日（水） 10:00～11:20

【場 所】青森市福祉増進センター（しあわせプラザ） 3階 大会議室

【出席委員】加藤 千尋 委員、鎌田 亮 委員、小玉 成人 委員、権藤 貞浩 委員、
白鳥 五大 委員、関下 斉 委員、田中 正子 委員、土井 良浩 委員、
西田 文豪 委員、本田 明弘 委員、蒔苗 均 委員、三浦 英樹 委員
計12名

【欠席委員】柏谷 至 委員、辻村 収 委員 計2名

【オブザーバー・傍聴者等】なし

【事務局】中村環境部長、武田環境部次長、山口環境政策課長、山口環境保全課長、
阿部廃棄物・リサイクル課長 ほか8名

【議事要旨】

○事務局から今後のスケジュール及び（仮称）青森市環境基本計画の策定について説明した後、各委員が意見を出し合った。

【質疑応答の概要】

○「資料1 青森市の環境に係る主な取組及び実績」について

（委員）

・有害鳥獣に関し、青森公立大学の近くでよく猿を見かけるが、人身被害等はあるのか。

（事務局）

・比較的里の方に近づいてきているのは確認されており、人身被害というのはあまりないが、農作物への被害というのはやはり一定程度確認されている。

（委員）

・森林の面積もこれまでで一番大きくなっており、野生鳥獣との「距離感」が近くなっている。文献には大量のイノシシを駆除していたという記録もあることなど、過去に学びながら有害鳥獣対応を考えてほしい。

（委員）

・温室効果ガス総排出量の推移で排出量が30%マイナスという説明があったと思うんですけど、あれって主な要因は「人口減少」か。

（事務局）

・それも一つの要因である。

○「資料2 (仮称)青森市環境基本計画策定に係る市民・事業者アンケート調査結果の概要」
について

(委員)

- ・回答者の年齢別の割合は、若い世代が低く、お年寄りが高くなっているが、アンケートを実施する際に年齢に偏りがあったのか、それとも単に若い世代の回答率が低くだけなのか、どのような状況なのか。

(事務局)

- ・市内を東西南北など大きくブロックを分けて、それぞれのブロックで均等に各年代を網羅するよう対象者を無作為抽出したうえでアンケートを送っている。結果として、ご高齢の方の回答が高かった。

(委員)

- ・若い方は学校とかに連携して回答をお願いしたりするといったのでは。

(委員)

- ・アンケートに青森市は魅力があるんだということを若い人にPRできるような、青森市以外と比較検討できるような内容はあるか。

(事務局)

- ・アンケートの項目は、他市を参考に作成しており、他市と比較するような設問等にはなっていない。

(委員)

- ・計画では、青森市の「魅力」を引き出すような内容を入れたらいいのでは。

(事務局)

- ・次の審議会では、ある程度形になった計画素案をお示しすることとしており、今日の御意見を踏まえ素案の作成作業を進める。

(委員)

- ・資料1の令和7年度市民意識調査の青森市の住みやすさでは「身近に親しめる自然がある」という回答が最も割合が高い割には、資料2では、自然環境に対する関心が低く見える。自然環境に関心を持つような、教育等が重要である。

(委員)

- ・自ら進んで環境問題に取り組む「人材の育成」とあるが、これは家庭であったり、学校であったり、セミナー等、そういうところを指しているのか。

(事務局)

- ・御認識のとおり。
- ・市民、事業者を広く対象に、講座やセミナー、イベント等を通して、環境に興味を持ってもらう、知ってもらう等、人材の育成に繋がるような取組を指している。

○「資料3 「(仮称) 青森市環境基本計画」の策定について」

(委員)

- ・めざす将来像の実現に向けた基本目標を設定するに当たり、青森市としての特色を入れたらいい。
- ・施策毎の取組について、ある程度具体的な内容を記載してほしい。

(委員)

- ・令和10年度までの約2年間の計画期間となっており、計画の内容についてこの期間で推進できるか疑問である。令和11年度以降はどうなるのか。

(事務局)

- ・市総合計画後期基本計画が令和11年度から令和15年度までの5カ年の期間で策定されることとなるので、それに合わせて、次の環境基本計画も令和11年度から令和15年度までの5カ年の計画期間になると考えている。

(委員)

- ・計画を立ててどのぐらい実行できたかチェックも必要ではないか。

(事務局)

- ・環境基本計画では、進捗を図る指標・目標値を設定することとし、達成できたかどうか、各年度の達成状況を確認しながら、その後の取組を検討することを考えている。

○「資料4 各分野の現状・課題及び目指すべき方向性」について

分野1 自然環境の保全関係について

(委員)

- ・分野1と分野5に関して、現状・課題、目指すべき方向性について、一般的に理解しやすいよう「保全と再生」、「ワイズユース（賢く利用する）」、「交流・学習」という3つの視点に留意するものいいのでは。

(委員)

- ・「自然環境の保全と共生」とあるが、自然環境と何の共生なのか分かるようにすればいい。
- ・全般的に防災の観点がない気がする。防災というキーワードも重要なので検討いただきたい。

分野2 生活環境の保全関係について

(委員)

- ・ダイオキシン類の常時監視について、「各事業者への立入指導を通じダイオキシン類を、汚染の防止を図ります」とあるが、施設を定期的に検査して、その内容を保管しているのか。

(事務局)

- ・ばい煙発生施設等の届出をしていただいております、ダイオキシンについても自主測定を報告していただいている。

分野3 廃棄物・循環型社会関係について

(委員)

- ・ごみの減量化・リサイクルの推進に当たって、分野5の環境学習や教育、普及啓発という部分も大事である。

分野4 地球温暖化・脱炭素関係について

(委員)

- ・アンケートからも情報発信の形態に工夫が必要だと思った。色々なメディアを使った環境リテラシーの向上を図るというような取組があればいい。
- ・雪対策について、環境の部分に含めるか含めないか議論があると思うが、雪と共にどう生きていくか、それについてどのような事ができるのかということについて、検討していくことも大事では。

分野5 環境教育・啓発関係について

(委員)

- ・人材育成の部分は、座学と自然体験などの体験型学習の2つを意識していただきたい。

○その他（会議後に寄せられた御意見）

(委員)

- ・市民意見という面では、環境保全に取り組む市民活動団体から意見を聞くのもいい。

(委員)

- ・計画の実行主体について、基本は行政ということになると思うが、市民が日常生活で気を付けること、企業が普段の業務で実施すべきこと、市民活動団体が行政と市民・企業の上に立つてできることなど、それぞれのプレイヤーがどんなことをやっていくのかというまとめ方もあるのでは。